

鉢ヶ森



鉢ヶ森は香美市香北町の中心部美良布の真北に位置し、端正な三角形の山容を見せている。御在所山や高板山の伝承とも相まって平家伝説のいわれを持ち山名は安徳天皇が悪霊を鎮めるために鬼の鉢の部分と頂上に埋納したこと由来すると伝えられている。山頂には古い石の祠があり、安徳帝・波切不動明王山の神を祀っている。また、河野領中腹には本尊岩屋大師と祀った神社と大岩がある。この岩屋大師は空海がこのあたりに流行した疫病を封じめるためこの地で祈禱を行って大岩より出た水による病人を治したという伝説が伝わっている。参拝道起点と思われる日御子口には本尊岩屋大師約三里と記された石碑が残っている。登山道となっているこの古い往還は豊永の定福寺〜京柱峠〜池田〜龍崎と最短距離で結ぶ空海が通った歴史の残る古道である。

至川又地蔵堂 往古より南は王ノ由良・庵谷小庭・河野・谷相に至る大道の分岐点であった。眼病平癒の地蔵様として信仰されている。

安徳天皇一行は、松尾峠を越え、河又八郎と過ぎ、吉野川を溯り、土佐町〜カ川村の平家平〜本川村休場〜稻藪〜大森〜越前門奥南川殿、小舎〜池田町橋山〜別荘跡をへて越前町横倉山の行宮に遷行され、正治二年(1200)八月、御歳三十二歳と崩御され、横倉山朝ヶ茶路に葬られたともいわれる。安徳天皇陵墓の参考地となっている。

宇宙と空の境界はどこにあるのだろうか。空海は宇宙の真理を曼荼羅としてあらわした。宇宙生命体 大日如来

旅人も多く通っている



鉢ヶ森の山容がとてよく見える

弘法大師 空海 真言宗の祖であり、厳しい修業を重ねて四国八十八箇所霊場を開く。はかり知れない天才であり、数々の偉業をなした。日本史の中で重要な人物に位置し、日本を夜明けに導いた大人物。

作業道に出

日御子には安徳天皇一行にまつわる地名が残り、天皇と平家盛の娘との間に数人の子供が生まれたという言い伝えがある。天皇の子は日御子とあがめられ、御子はこぼせ(なり)滝といふとこに降り奉り、滝の宮とあがめ奉られたといふ。

堀れ込んだガレ場の道歩きにくい

日御子岩屋大師

岩屋大師や参拝道は熊野出身の小笠原成宗ごんご夫妻がたんにんに管理・整備されている。河野に無理難題を茶羅堂、住職

四国虹谷麦粉山 弘法岩屋大師像

春季大祭 3月21日(日) 宵祭 3月20日
秋季大祭 10月21日 宵祭 10月20日
昔は大祭の日にはお祭りが並びにぎわっていた。

西南方向に高知平野〜土佐湾が見える

鉢ヶ森 1,270m

山頂には石の祠と手水鉢があり、遊歩道の里が見える。

鉢ヶ森山頂からアツツミの尾根と松尾峠に向かうと大屋山・西大屋山が見える。大屋山は安徳天皇が行なっている。王亡跡山、王亡死山という字とある場合もあると伝わる。西大屋山〜大ボシ山と名付けられている。

美良布の町から日御子川の奥に端正な三角形の鉢ヶ森が望めることができる。

帝「安徳」と呼ぶ奉るのには後世の人が贈り名を奉ったもので、帝の御名は言仁(ことひと)といい、土佐へ御潜行後は御名を呼ぶかあるいは「養和」という年号を以て天皇を呼ぶ奉ったと考らわれている。川の尻尾山に「宮の茶路」という東西八町南北一町半ほどの平地があり、御陵の地と佐村山の巖穴から湧き出る泉と「ゴトヒトの御釣井」と呼ばれている。

永野に在る中学校が、山頂まで徒歩約16km。山頂には山神が鎮座していることなど、近世までは不入山として人跡が絶たれていた。村人は河野の中腹に御遷行所を祈願し、その地を諸願して来た。

至大豊

南王の深い谷や素履隧道 悪路

お地蔵様

永野より約16km

無線中継機 廃虚

松尾峠 (有沢峠)

至谷相 永野

山歩きの必要水分量目安は 体重×登山時間×5ml (60kg×8時間×5の場合 2400mlといわれる)



嵯峨天皇の弘化十年、弘法大師 46歳の時、衆生救済のため四国山中で修業していた。その頃疫病が流行し人々は苦しんでいた。大日如来の御尊光により、この岩屋に降り着き、日光菩薩の御光がこの岩屋を照らした。このことから明良山と号し、夕日、岩屋とも呼ばれた。大師は真言秘法により岩屋から湧き出る水を治したといふ。

たつとつじはなしによると、日御子から上流川の内川周辺には山犬や四つ目の大男の怪物一本足の大男である山犬、撃たれぬニニン、突く山女、餅のねえ魔物の大男、瓊のさか、三尺程もある大天狗、大ムカデや大など、夕日の妖怪、化け物の話などが伝えている。

四国へ落ちのびてきた平家一門。帝の行跡は実に謎々な説が伝わっている。そのひとつには、帝が五石所山でしばらく住まわれている間に、門閥宰相教盛が亡くなり、この山の上に墓を築き、人々はあがめ尊と御宰相山といわれた。帝はその後、山を依り、河内村へ行かれ谷に阻まれ進めな(なり)。併が木と谷に寝し進められたところから、橋が谷と呼ばれるようになった。そして松尾谷に着かれ、行宮を営んでいたが大変な深山で、山の主がおり、にびに怖い異変が起った。帝はこれを鎮めるため、御児の鉢を山頂にうつめ、山祇の命、草野姫の命をお祭りし、朝夕を祈られ、これ以降、妖怪変化は(なり)止った。この地には、昔は「宮の茶路」といわれている。(香北町史)

至繁蔵

登山口

日御子より約10km

花道 西又河野線

植林された段々畑の石垣

河野に鉢ヶ森の祠がある

至日御子 川の内川の清流